節分

年のうちに 春は来にけり ひととせき 去年 (こぞ) とやいわん 今年 (ことし) とやいはむ

在原元方 古今和歌集第一卷

節分の夜

- 節分の翌日が互春。節分はまさに季節を分ける時。
- 節分の夜の食事を「節分年取り」などともいい、陰暦の習俗の名残を見ることができる。
- ・安曇野市のいくつかの地域でも、大みそかの年とりと同じように尾頭付きの肴に煮物・吸い物などで食事をととのえ、神棚・恵比寿・大黒に供え物をする。取り勝ちといって、早めに豆まきをし戸締りをして家族だんらんをする。その折には豆つかみなどをする。

まめまき



- 煎った豆はお一升桝に入った豆はお一升桝に入った豆はかりないないらった。
 たまれるのですがります。
 なまれるのですがりますがらいたのですがらいたのですがらいた。
- ・ 豆は家の奥から撒きはじめ、最後に出入り口で撒いて戸を用める。



鬼はそと~ 福はうち~ ~~!

節分の豆

- 節分には豆まきをするが、豆は落ちても芽を出さないようにと、必ず炒ってからまく。一回の炒る量は、一からは鬼の豆、もう一からは神の豆といって、必ず二から炒るものだといわれている。炒る時には、必ず豆殻を焚くというところもある。
- 豆まきは戸主が礼装に着替え、三宝か一升桝に入れた豆を神棚・各部屋・屋敷内の建物などに撒いて歩く。主人が「鬼は外稿は内」といってまくと、家族の一人が「ごもっとも」さっても」といってついて回る。豆まきが終わると、家族そろって豆つかみをする。一回で年の数をつかめると、その年は幸運だといわれる。

節分にまつわる言い伝え

- 風邪をひいている人は、節分に撒いた豆を拾って部屋の四隅に置いておく と活る
- ・節分の豆と拾ってとっておき、初雷のなるときに食べると雷が落ちない
- ・ 豆がらや柊の枝(30センチぐらいのモノ)にごまめの頭をつけて、あぶり、戸间口にさしておくと厄除けになる【ごまめの頭を焼いた臭気で鬼を退散させる】

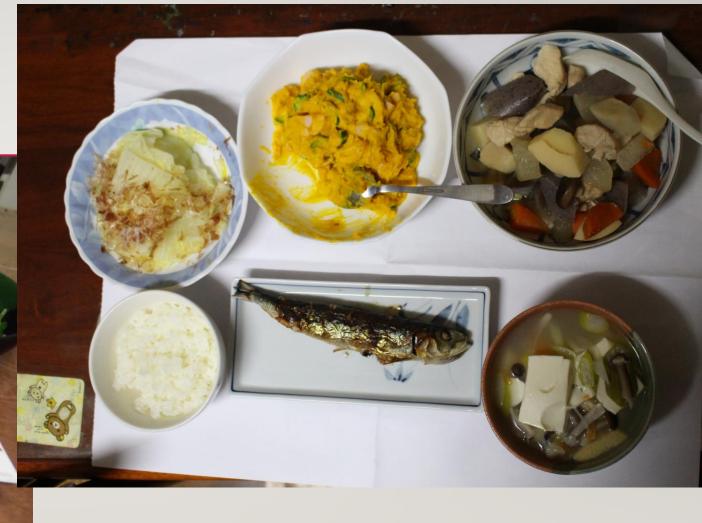
やいかがし



節分には、いわしの頭を豆 がらにさして、火であぶって 臭みを出したものと、柊を東 ねて、玄関先に飾る。柊のと がった案といわしの臭みで、 魔物が寄り付かない(撃退す る)といわれている。いわし の代わりに田つくりを使う家 もある。節分が近づくと、 スーパーでも売り出される。

節分の夕食 年取りのようにとはいうが、魚は丸干しやめざしの尾頭付きが 多い。いずれも嘘金地区の某家





節分のご馳走・親子でな巻き1本ぐい

